

【第二部】

大海人皇子 おおしあまのみこ 大和の大王家の皇子 631～

*

額田郎女 ぬかだのいらつめ 大海人皇子の妃。幼名は垂那（あだ） 632～

*

宝大王 たからのおおきみ 大和の大王。宝皇女。 610～

讃良 ささら 葛城皇子と美濃都子の娘 645～

十市皇女 とおちのひめみこ 大海人皇子と額田郎女の子 647～

*

豊日大王 とよひのおおきみ 宝大王の弟。かつての軽皇子 612～

葛城皇子 かつらぎのみこ 宝大王の子 626～

蘇我石川麻呂 そがのいしかわのまろ 美濃都子の父

中臣鎌子 なかのおみのかまこ 飛鳥の豪族。葛城皇子の側近

中臣金 なかのおみのかね 中臣鎌子の従弟

巨勢徳陀 こせのとこだ 飛鳥の豪族。左大臣

佐伯子麻呂 さえきのこまろ 葛城皇子の舎人（とねり）

稚犬養網田 わかいぬかいのあみだ 葛城皇子の舎人

*

美濃都子 みやつこ 蘇我石川麻呂の娘。葛城皇子の妃。讃良の母

由良 ゆら 宝皇女の女孀

安見娘 やすみこ 土蜘蛛 626～

*

村国男依 むらくにのおより 大海人皇子の舎人

置始比等 おきそめのひと 大海人皇子の舎人

海部石床 あまべのいわとこ 大海人皇子の舎人

朴本大国 えのもとのおおくに 大海人皇子の舎人

*

鏡郎女 かがみのいらつめ 土蜘蛛の長 623～

鏡郎女 ひえだのあれ 伊勢の洞窟に住む盲目の女。大海人皇子の母。垂那の養母 615～

系図

